



## 環境制御システム 導入で生産力を向上

キュウリ農家  
**佐々木 崇興**さん  
＝中田町＝

**澄んだ環境が作り出す  
登米市のキュウリ**  
県内一のキュウリ出荷量を誇る本市は、国の指定産地にもなっています。市内では多くの農家がキュウリを生産しており、佐々木崇興さんの両親も約50アールの畑を耕作しています。佐々木さんは、高校卒

業後、上京・就職しましたが、28歳の時にUターンして就農しました。  
**栽培環境の一括制御で  
効率的に栽培管理**  
キュウリは乾燥や過湿に弱いため、気温調整や排水対策がとても重要となります。佐々木さんは、栽培条件



①施設規模はハウスと機械室を合わせて約22アール②貯水タンクは60トン、雨水と井戸水を使用。肥料や薬剤の散布も自動調整③施設内の環境をシステムで管理。スマートフォンでの遠隔操作も可能



現在、市内でこの装置を導入しているのは、2軒のみであることから、視察に訪れる人も多く、周りからの反応は大きいとのこと。「コストなどを考えると個人農家での最新技術導入は

### 農業を未来につなぐための挑戦は続く

導入しているのは、2軒のみであることから、視察に訪れる人も多く、周りからの反応は大きいとのこと。「コストなどを考えると個人農家での最新技術導入は

大変ではありますが、支援制度が更新されていきますので、常に情報収集を怠らないことが重要だと思っています」と伝えます。  
「農業全体の後継者不足問題はこれからもっと深刻化すると思う。法人化も視野に入れ、時代に合わせた形で、いろいろなことに挑戦していきたいです。それと、登米市のおいしいキュウリを、たくさん食べてください！」佐々木さんの明るさは、農業の未来を照らします。



## 新たな技術で広げる 農業の可能性

(株)エス・ティエフ  
代表取締役  
**佐藤 瑛彦**さん  
＝豊里町＝



### 資源循環により 持続可能な農業を

「(株)エス・ティエフ」は、2023年に設立した農業法人です。水稲のほか、大豆、小麦、ジャガイモを主に栽培しており、経営耕地面積は約40ヘクタール。個人などの農作業委託業務も請け負っています。

元々、稲作と畜産業を営む農家だった佐藤瑛彦さん。畜産における稲わらの確保が課題だったことから、水稲請負を増やすとともに野菜の周年栽培にも着手。稲作と畜産で発生する稲わらや堆肥などを資源として活用する循環型農業を実践しています。

### 先進技術の導入で、 収量や品質の向上へ

導入している先進的な技術の一つが、ほ場管理システム。管理田の位置情報を登録し、スマートフォンで水位などの確認や遠隔操作ができるシステムです。ま

た、自動操舵機能の田植機やトラクター、米の中から異物などを高速で検出して取り除く色彩選別機などを取り入れています。

「周囲からは、機器類を入れ過ぎだと言われることも。でも、離農が進む中、どうしたら若い世代が農業に携わり継続していけるか考えたとき、スマート農業技術が一つの道となると思う」と語る佐藤さん。機器の導入に加え、本年度はマイ

クロプラスチック殻を出さない肥料を使った水稲の生育試験も実施。また、土壌管理のために植えたヒマワリ畑は、地域の名物になりつつあります。

さまざまなことに挑戦する中で、佐藤さんは「受託件数の増加や、天候に左右される作業など、農業に苦勞は絶えませんが、常に遊び心を忘れず進むことにしているんです」と笑顔を見せます。



①米調整設備で収穫後の作業(乾燥～計量選別)を一連処理②システム搭載機械による大豆播種。真つすく等間隔にまくことができる③農作業の省力化・効率化で、従業員の負担も軽減④除草剤散布は、大好きなラジコンで楽しみながら